

「レーン・宮沢事件」を繰り返さないために

「レーン・宮沢事件」をご存知ですか。

「レーン・宮沢事件」は「戦争と人間、戦争と人権」という問題を今も鋭くつきつけています。

1941年12月8日、日米開戦のその日、全国の特高警察、憲兵隊は「スパイ容疑者」一斉検挙にのりだし、178名を逮捕しました。多くは欧米の人々であり、日本人は61名でした。この逮捕者のなかに北海道大学予科英語教師のアメリカ人ハロルド・レーンとポーリン・レーン夫妻、北大生宮沢弘幸さんらがいました。

レーン夫妻はクウェーカー教徒で、学生から信頼される人であり、宮沢さんはレーン家に出入りする学生の一人で、旅行の好きな「愛国的」な青年でした。このレーン夫妻と宮沢さんが「スパイ」として軍機保護法違反で刑罰をうけたのです。ハロルド・レーンさんと宮沢さんは懲役15年、ポーリン・レーンさんは懲役12年でした。これは「ゾルゲ・尾崎事件」に次ぐ重い刑でした。

宮沢さんがレーンさんに旅行談を話したことが、公知の事実であるにもかかわらず軍機の探知、漏泄であるとされたのです。

日米開戦前夜という状況においても、レーン夫妻と宮沢さんらが人間的交流・信頼関係を維持し続けてきたこと、そのことが問題とされ、罪に問われたのです。

私たちは、「レーン・宮沢事件」を風化してはならない、あの誤りを繰り返してはならないと考え、記録ビデオ「レーン・宮沢事件 — もうひとつの12月8日 —」の上映と講演の集いを行なうことにしました。ぜひご参加ください。

(「レーン・宮沢事件」を追究した文献として岸本洋一著『スキャンダラスな人びと』—新教出版社—、上田誠吉著『ある北大生の受難』—朝日新聞社—、『人間の絆を求めて』—花伝社—があります)